すただどちらかに統合した方が將來の高校教育のためによりよき効果をあげうるかどいう点につきましては慎重に考慮致す必要があろうかと存じます。私達は決して府立になる方が市立になるよりも世間態がいい、というような虚栄的な見解から申すのではありませんが、少くとも次の点より見まして、府立の高校を市立とするよりむしろ市立の高校を府立とする方が良いように存じます。即ち大阪府の高校教育は統一した方針の下に一貫して行うことが絶対に必要であると存じますが、この点より見まして市内の高校は市立、府下の高校は府立と言うのではその間に種々教育方針の差が生じてくることと存じます。又財政方面から見ましても大阪市は市内の小、中學校の復旧、整備に莫大な經費を必要とし、六三制の義務教育を完全に實施しようとすればする程、

陳狀書

日本の教育、特に商都大阪の教育に多大の關心を拂われ、過去の缺陷を明快に指摘して適時適所に私共の進むべき道を御教えたまわって居ります。ことを衷心から感謝いたします。まさに懸男女共學問題も立ち所に成功し、嬉々として通ふ子供達を見るにつけても、永い間の男尊女卑の弊風も今後一切あとをたち、それぞれの人間の尊さを認めた美しい社會が目の前に來ることが思われて、父兄共同喜びに堪えません。さて此の度の發聞いたす所によりますと市内の府立高校が市は統合致集るとの事でございますがどちらか早晩本校もなければならないのは誠に當然のことと存じま

To Mr. Paul L. Anderson,

According to the newspaper of the Mainichi Press issued on Feb. 25, it was said that the administration of the Osaka Prefectural Upper Secondary High School in the city of Osaka will be delivered to the committee of the Municipal School Board from the Prefectural one.

After our investigation on this problem by the P.T.A. of our school, we had the following result:

1. The administration of the committee of the Prefectural School Board is better than the Municipal one. ------ 96.08 %
2. The administration of the committee of the Municipal School Board is better than the Prefectural one. ------ 3.92 %

Total ------ 100 %

Judging from this result it is natural that school is administrated by the committee of the Prefectural School Board and so we hope you will accept our general opinions.

President of the P.T.A. of the Osaka Prefectural
Abeno Upper Secondary High School
Y. Kamada

6A

~~Set up~~

~~Secretariat~~

out up –
~~Outhouses~~ of

my 7
Prefecture
2½ f

over

Cir Ed —

For your info,

INTER OFFICE BUCK SLIP

TO: DATE ________ 1948

CPC __________

DET CO ______

ECON DIV ____

IMP & EXP ___

EDUC ______

INFO ______

LEG & G ____

HEALTH ____

WELFARE ____

PROC ______

FOR:

ACTION [illegible] __________

FILE BY __________

INFORMATION __________

STUDY AND REPORT ______

RETURN TO C FILE ______

COMPLIANCE __________

PREPARATION OF CORRES-
PONDENCE BY __________

Remarks

To Col. Frank Kowalski,

According to the newspaper of the Mainichi Press issued on Feb. 25, it was said that the administration of the Osaka Prefectural Upper Secondary High School in the city of Osaka will be delivered to the committee of the Municipal School Board from the Prefectural one.

After our investigation on this problem by the P.T.A. of our school, we had the following result:

The administration of the committee of the Prefectural School Board is better than the Municipal one.
-------- 96.08 %

The administration of the committee of the Municipal School Board is better than the Prefectural one.
-------- 3.92 %

Total -------- 100 %

Judging from this result it is natural that school is administrated by the committee of the Prefectural School Board and so we hope you will accept our general opinions.

President of the P.T.A. of the Osaka Prefectural
Abeno Upper Secondary High School

Y. Kamade

市内府立高校の市移管を必要とする理由

大阪市教育委員会事務局

（昭和二四、二、二八、）

一、六・三・三・制新教育の一貫性を實現しなければならない。

教育基本法及び学校教育法の明示する六・三・三制新教育の系列を横に切断し、市内の「六・三」義務教育は市委員会で行い、あとの「三」の高等学校教育は、府委員会にゆだねるというようなことは、明らかに教育民主化の原則に反し、新教育の一貫性をいちじるしく害うものといわねばならない。

もし、このような二本建教育行政が强行せられるならば、

(1) 教育設備は甚だしく跛行的になる。

(2) 市民の負擔する教育財源が府、市によつて思い思いに使われ、一方が多の犧牲になるおそれが少くない。

(3) 新制中学校卒業生の増加に對應する高校增設が進捗せず、往年の試験地獄を招來するおそれがある。

二、府、市両方の手で公立高校を経營することは、次の通り、高校教育の機会均等を阻害する。

(1) 新制中学校の分布を輕視し、生徒の通学利便を省みず、高校それ自体のみの都合によつて校舎が建てられ、上町高台に、大手前、清水谷、夕陽丘の三高女が軒をつらねるに反し、此花、福島、大淀、旭、都島方面等は、何等省みられないような結果が豫想される。

(2) 教職員の交流を廣範圍、敏速に行うことが出來ず、学校差を温存助長する。

(3) 高校綜合課程制をとるには、府、市学校教職員の大量交流を必要とするが、之を十分に行い得ない。

(4) 二本建はあくまで不合理なものであるから、やがて一本建になることが豫想せられて、設備の改善、校舎の增設等に積極的な措置がとられず、見送られる結果となる。

三、市民の子弟は市民が選出した市教育委員会によつて教育せられるのが當然である。

市民以外の市外百八十万農村民をも代表する府教育委員会によつて市民の子弟が教育されるときは、いきおい市の實狀に應ずる市民的な教育が十分には施されない。市民が選出した市教育委員会によつて、その子弟を教育することこそ、教育の地方分權であり、自主獨立を確保する所以である。市内府市立高校生徒の八割までが大阪市民であることから見て、市委員會の一元的經營は當然であろう。

四、今最も重要な問題となつている經濟九原則も、敎育の面においては、府、市二重施設を廢し、一本建にすることによつて始めてその完遂を期することができる。

五、府縣敎育委員会の任務は、地方敎育委員会がその地域の学校を運營するについての助言と指導を與えるサービス機關であることが、敎育委員会法にかない敎育地方分権の眞精神に合致するものである。

六、市が市内公立高校をすべて經營することについては、財政上その他何等懸念はない。

(1) 財政的に不安はない。

府・市の豫算を見ると、その財源において、府が殆ど國庫支出、又は補助金等に仰いでいるに反し、市は獨自の財産收入、使用料その他の一般歳入により、彈力性において、府よりも數段まさつていることは、周知の通りである。その上、府が市内の府立高校生徒（市民の子弟が大部分）を敎育するに要する費用は、實質的にはすべて市民が負擔しており、市外からは一錢の援助も受けていない。從つて府立高校がすべて市に移管せられたからといつても、財政的に困ることはない筈である。

(2) 經營能力に不安は少しもない。

市は、戰前、現在の高校に相當する中等学校を五十九校も經營し、かつ立派な大学まで獨力で設置し、更に多額の市費を以て一大綜合大学を計畫している。府市立三十四校の高校經營に手を燒くような大阪市ではあるまいと思われる。

青年学校は含まず
但高等家政女学校は含む

七、府立高校は程度が高い。これを市に移管すると程度が低くなるというような誤解が相當廣まつているが、その實情は次の通りである。

(1) 設備について。

從來、實業敎育は主として市において、普通高等敎育は府において、それぞれ分擔經營する傳統であつたが、大正末期から昭和にかけて、中等学校のいわゆる試驗地獄を現出したので、その對策として、市では大きな犧牲を拂つて中央部の小学校を廢校し、市立中等学校を開設したのである。從つて、設備において多少府立より劣る所があるのも已むを得ないが、移管によつて府市立の差別觀念を廢し、施設も將來整備し、平均化するならば、高等敎育の機会均等に大いに役立つであろう。

(2) 上級学校進學率について。

府立は創立も古く、比較的優秀兒童が入学しているので、上級校へ進学する者も多い。然し市立は實業学校が多い關係上、上級校へ進む者が少いのは當然である。これを市に統一し、合理的な通学區域を設定し、綜合制を實施するならば、職員の配置交流も行われ、学校差の觀念は一掃されるから、この点もおのずから解消しよう。

八、移管後の通学措置。

市一本建で高校移管後は、原則として、通学區域を嚴守させるが、現在の在学者については、（併設中学校三年も含めて）そのまま現在校へ通うことができ、何ら異動がないように特別の措置をすることとなつている。

六・三・三制新教育現下の問題

——高校移管問題の意味とその經過——

大阪市教育委員会事務局

（昭二四・二・二八）

一、高校再編成の好機

教育行政現在の重要課題は、六・三・三制の完全實施、教育の機会均等及び教育の地方分権化の三つである。これらの問題は教育委員会の發足、男女共学、六・三義務教育休制の整備によつて、着實にその数歩を踏出しているが、現下最も問題とされているのは、六・三・三制最後の段階である高校を、どう整備し、どのようにして教育の機会均等たる理想を織込むかということである。というのは本年が、高校に併設されていない舊制中学がなくなつて高校一本の姿に脱皮し、新教育制度に切換える絶好の年であり、捉えねばならない好機であるからである。

二、高校再編成の主眼点

高校を新教育制度に適合せしめる爲には、新憲法が目指し、教育基本法が明示している所の、教育の機会均等を主眼としなければならないことは言を俟つまい。

この爲には

イ、非民主的な夢を追う学校優越感の温床をなす学校差を撤廢しなければならない。

ロ、綜合科目制にして幅の廣い教育の機会を與えねばならない。

ハ、通学區域を定め、学校の分布をこれに適應せしめて、生徒の經済的、時間的負擔を輕減せねばならない。

ニ、以上の三点を實施するに付いて、市内高校が府市二本建で運營されることは、その根本的な障害となるから一本建に改めねばならない。

三、大阪市教育委員会の方針

市教育委員会はこの問題を最も眞摯に、そして合理的に解決する爲に次の方針を採ることにする。

イ、府市立の高校を通じて、設備、敎職員の交流、改善を行つて学校差の撤廢に努める。

ロ、各学校に、原則として普通科、商業科、家庭科を設ける。

ハ、區内の中学校を纒めて、地域的、交通的に最も近緣關係にある高校（府市立を問わない）に直結する。

ニ、工業高校の通学區域は、普通高校のそれよりも擴大し、數區をその校の通学區域とする。尙特殊の科目（例えば紡織科）を有する工業及農業高校には、所定の通学區域を超えて入学せしめる。

ホ、高校に惠まれない近接市町村及び他府縣からの通学は全生徒數の二割程度まで認める。

ヘ、現に在学する生徒（併設三年を含む）には、通学區域制を適用しない。

ト、余剰となる校舎は新制中学、特殊学校等に轉用する。

チ、最後に以上の諸改革を有効、合理的に實施する爲市內公立高校の全部を市委員會で經營する。このことは六・三・三制を横に切斷せず一貫せる教育行政を行う爲には不可欠のことと解する。

四、高校移管問題の經過

イ　第一回府市教育委員会協議会

本年一月十八日開催したが、實は市側は、昨年十二月に移管問題を協議する会の開催方を府側に申入れたのであるが、府側の回答を得ず、再度督促の結果ようやく開催せられたものであつて主な協議事項は

ばならない。

三、大阪市教育委員会の方針

市教育委員会はこの問題を最も眞摯に、そして合理的に解決する爲に次の方針を採ることにする。

イ、府市立の高校を通じて、設備、教職員の交流、改善を行つて学校差の撤廢に努める。

ロ、各学校に、原則として普通科、商業科、家庭科を設ける。

ハ、區内の中学校を纏めて、地域的、交通的に最も近縁關係にある高校（府市立を問わない）に直結する。

ニ、工業高校の通学區域は、普通高校のそれよりも擴大し、數區をその校の通学區域とする。尙特殊の科目（例えば紡織科）を有する工業及農業高校には、所定の通学區域を超えて入学せしめる。

ホ、高校に惠まれない近接市町村及び他府縣からの通学は全生徒數の二割程度まで認める。

ヘ、現に在学する生徒（併設三年を含む）には、通学區域制を適用しない。

ト、余剰となる校舍は新制中学、特殊学校等に轉用する。

チ、最後に以上の諸改革を有効、合理的に實施する爲市内公立高校の全部を市委員會で經營する。このことは六・三・三制を横に切断せず一貫せる教育行政を行う爲には不可欠のことと解する。

四、高校移管問題の經過

イ　第一回府市教育委員会協議会

本年一月十八日開催したが、實は市側は、昨年十二月に移管問題を協議する会の開催方を府側に申入れたのであるが、府側の回答を得ず、再度督促の結果ようやく開催せられたものであつて主な協議事項は

1・市が高校全部を經營するに付ての財政的能力の有無

2・市は六・三義務教育のみを行うべきでないかという六・三・三制の教育行政二本建の問題

3・府市高等學校の優劣及びその原因に付ての問題

4・市に移管することがたとい純教育的見地より可なりとしても、政治的理由による困難性、及び財産處置手續の困難の問題等に付論議せられたが何等意見の合致を見ず次回に持越された。

ロ、第二回府市教育委員会協議会

二月七日再度開催せられたが前回仝様何等進展を見なかつた。府側は、主に高校移管の政治的困難性に囚われているものゝようで、移管を認めるが時期尙早論を唱える府側委員も現れた。

ハ、府市教育事務局の会談

この間事務當局も兩度にわたり会談したが、府が一方的に設けんとする通学區域設定諮問委員會を、府市教育委員會協議會の諮問機關とすることの市の提案が原則的に認められたこと、及び府側も教育的見地に立つとき、全高校の市管理を容認することなどの外、事態を進展せしめる何等の結論も得られなかつた。

ニ、市長及び市会の動向

本市に於ては市長を初め、市会の空氣も府立高校の市移管を求めることに一致して居り、二月二十四日市会文教委員会は滿場一致を以て六・三・三制新教育の一貫性ある完全實施の爲、市内府立高校を早急に市に移管し、目睫に迫る新学期の開始に遺憾なからしむることを要望する決議を行い、これを府市兩教育委員会に傳達したのである。

五、かように新教育精神に沿う六・三・三制の實施が、高校移管問題をめぐつて暗礁に乘上げているが、この間府側では、府立高校の教職員、在校生、P・T・A等の意見を集め、連絡する等の手段を講じているが、市は教育委員会の良識と大乘的見地によつて、事態の圓滿解決することをひたすらに望んで何等積極的動きを採らず、むしろ教職員に對しては自重を勸告しているのである。しかし今や新学期も目睫に迫り、徒らに遷延を容さざる事態に鑑み、これを公正な世論にうつたえることも已むを得ないとの決意を固めつゝあるのが現狀である。

Translation finished

大阪府教育委員会が新制高校を所管する場合の統合

1 別表のとおり実施すれば

a 現在の大阪市立の三高校校舎を吸収して他の十四高校の全生徒を悉く府立高校に包摂することができる。

b 府立十六校（西野田高校を除く）と市立三校と合計十九校で現在生徒を十分教育することができなお人口増加のことも考えて当分現状で行ける。

淀川、泉尾（工） 今宮(工) はなおゆとりがあり特殊な学校として大阪の産業に寄与することができる。

c 前項十九校は施設もほぼ整備しているので著しい学校差を認めないから学区制（一学校一学区）も無理がなく実施せられる。

d これによって次のように莫大な経費の節約ができる。なお十四校分の新制中学校舎建築費が助かる。 8,400,000

十四校を廃校にするため校費年	840 万円	（一校60万円として）
統合による余剰教員人件費	3492 万円	
計	4332 万円	

f 府としては従来と経費収支の比較におい

しい学校差を認めないから学区制（一学校一学区）も無理がなく実施せられる。

d　これによって次のように莫大な経費の節約ができる。なお十四校分の新制中学校舎建築費が助かる。　　8,400,000

十四校を廃校にするため校費年　840万円（一校60万円として）
統合による余剰教員人件費　3492万円
計　4332万円

e　府としては従来と経費収支の比較において
市立三校を移管するための校費として　180万円　　1,800,000
教員増員のための人件費（178人）　2136万円
計　2316万円　　21,360,000
を要することになるが
市立生徒を府に吸収することによる授業料収入（7,652人）　2754.72万　があり
差引　438.72　増収となる

2　資料

府立（市内）教員数　677　（定時制を含む）
市立　〃　469　（大阪市立一校分を含む）
統合の結果必要教員数　855
差引余剰教員数　291
廃校となる学校　14　新制中学校舎に充当
節約される経費　校費　840万円
人件費　3492 ｝ 4332万円
この他に新制中学校舎14校分　14000万円（一校1000万円として）
なお府支出と収入との収入増　438万円
計　18770万円,000

4,380,092

8,400,000

1,400,000,000

Commander, Military Govt. Team, Feb. 26, 1949.
Osaka, Japan.

Subject: Unified Control of Public Senior High Schools in Osaka City Reportedly Proposed by Osaka Municipal School Board

Attention of Mr. Anderson

Sir,

According to Feb. 25 issue of the "Mainichi", the Osaka Municipal School Board have unofficially decided on putting all the public senior high schools in Osaka City under their unified control or management, and they will reportedly discuss the question in the near future with the Osaka Prefectural School Board as a preparatory step towards the materialization of this plan. This is a piece of news quite surprising to us.

Some time ago our P.T.A. had a general meeting, in which we discussed whether Osaka Prefectural Senior High Schools, such as ours, should retain their present positions or be transferred to the management of the Osaka City authorities.

After discussing from various angles, the meeting reached the conclusion that such schools ought to be placed under the unified control of the Prefectural authorities; we firmly believe that for the 6--3 system education the city, town, or village authorities ought reasonablly to hold themselves responsible, and aim at bringing the system to a stage of perfection as soon as possible, and we also convince ourselves that the education in senior high schools should be managed and controlled in a thorough-going manner by such larger bodies as regional or prefectural authorities. It is our firm belief that this latter method will bring about far better results.

The majority of our P.T.A. members are citizens of Osaka City, therefore it would seem natural enough to expect them to favour the proposed plan of the Osaka Municipal School Board. Despite this, however, these people of our P.T.A., keenly desiring for the welfare of the Osaka citizens at large and praying sincerely for a rightly-directed education, do maintain that it would be far more desirable and advisable not to shift the senior high school education to the hands of the City authorities.

The 6--3 system education has been conducted in a most unsatisfactory manner at the hands of the City authorities, and therefore we do hope and desire that the City authorities will allot a sufficient amount of money for the task of getting the 6--3 system schools out of their present miserable condition. But such efforts on the part of the City authorities are naturally subject to a limitation, and even if they were to try to take responsibility for the senior high school education, too, their efforts, we are afraid, would bear no satisfying fruit in either of these two spheres of education, provided two such heavy tasks were shouldered by them at the same time.

This is how we feel about the question, and we should be greatly obliged if you would most kindly pay due attention to this idea of ours and give to the authorities concerned proper help and guidance and instruction.

Most respectfully yours,

Awai Iwakichi
President, P.T.A., Osaka Pref.
Kozu Upper Secondary School

Kurita Kintarō
Vice-President, P.T.A.Osaka Pref.
Kozu Upper Secondary School

Morimoto Mitsu
Vice-President,P.T.A.,Osaka Pref.
Kozu Upper Secondary School

Osaka
February 26, 1949

Chief of Military Government,
Sir,

The Osaka Mainichi of January 25th reports that the prefectural upper secondary schools within the city limits will shortly be transferred to the city. As this is a matter of great concern to P.T.A. of the prefectural schools, we asked the members of the P.T.A. of our school for their answers to the question, "Is it preferable to transfer the prefectural schools to the city?"

The answers are as follows:

The total numbers of answers	693
Ayes	23
Noes	615
Indifference	55

As is clear in the above, our desire is that the of great concern to P. T. A. of the prefectural schools, we asked the members of the P. T. A. of our school for their answers to the question, "Is it preferable to transfer the prefectural schools to the city?"

The answers are as follows:

The total numbers of answers 693
Ayes 23
Noes 615
Indifference 55

As is clear in the above, our desire is that the prefectural schools in the city will be left under the jurisdiction of the prefectural authorities.

Our reasons are as follows:

1 The transfer of the prefectural upper secondary schools to the city will cause an increase of taxation upon the citizens, which is a great burden to them under the present economical stringencies.

2 The city authorities should concentrate their efforts to the completion of lower secondary schools which still remain unfinished.

3 In view of the past educational administration of the city authorities, it is doubtful whether the prefectural upper secondary schools, if transferred to the city, will ever be made better than they are now. As a matter of fact, the prefectural upper secondary schools are superior to the municipal ones in many respects.

Yours sincerely,

P. T. A.
of
The Osaka Prefectural Sumiyoshi
Upper Secondary School.

Osaka,
February 26, 1949

Chief of Educational Section,

Sir,

The Osaka Mainichi of January 25th reports that the prefectural upper secondary schools within the city limits will shortly be transferred to the city. As this is a matter of great concern to P. T. A. of the prefectural schools, we asked the members of the P. T. A. of our school for their answers to the question, "Is it preferable to transfer the prefectural schools to the city?"

The answers are as follows:

The total number of answers	693
Ayes ---- ----------------	23
Noes ----------------------	615
Indifferent -----------	55

As is clear in the above, our desire is that the prefectural schools in the city will be left under the jurisdiction of the prefectural authorities.

Our reasons are as follows:

1 The transfer of the prefectural upper secondary schools to the city will cause an increase of taxation upon the citizens, which is a great burden to them under the present economical stringencies.

2 The city authorities should concentrate their efforts to the completion of lower secondary schools which still remain unfinished.

3 In view of the past educational administration of the city authorities, it is doubtful whether the prefectural upper secondary schools, if transferred to the city, will ever be made better than they are now. As a matter of fact, the prefectural upper secondary schools are superior to the municipal ones in many respects.

Yours sincerely,

P. T. A.

of

The Osaka Prefectural Sumiyoshi Upper Secondary School.

Mar.3
Mar.3
8:00
11:00
S. Nishikawa
T. Kawase
K. Kono

Commanding Officer
Education Section

To the Commanding Officer of O.M.G.T.

We, principals of the Osaka Municipal upper Secondary schools, beg leave to present our opinions before your honorable authorities as follows:

The composite curricule system, the establishment of the school zone system and the consistency in the principle of education are most desirable in perfectly effectuating the function of the upper secondary schools under the new education system in concert with the education in primary schools and lower secondary schools.

In this sense, we believe it is quite reasonable that the management of all public secondary schools in Osaka-city should, now, be placed under the control of the Osaka Municipal Board of Education.

We think the ideal way is to put the upper secondary schools under the management of the local board of education ~~of~~ from the view point of the decentralization and the equal opportunity of education, the fundamental rule of the new education system, and also of keeping close connection with primary schools and lower secondary schools under the 6.3.3. education system. They should be controled and managed by the prefectural board of education ~~the~~ only when the city, town or village concerned cannot afford to keep them. Osaka City is one of the biggest cities in Japan with various features to make it conspicuous and is well capable of managing upper secondary schools from both cultural and financial viewpoints. The City has actually been managing the Commercial Collage since a long time ago and is now going to establish a university anew. Under these circumstances, we think it rather unreasonable that the management of higher secondary schools forming a link in the chin of 6.3.3.4. education system should alone be untouched by the city authorities.

It is the earnest desire of us who take charge of the education works in the secondary schools in the city, that the through scheme of education will be realized as soon as possible, especially because the new school year is drawing near; it is regretted that the settlement of this problem is still left in suspense,

We sincerely solicit that the Military Government will kindly urge the authorities concerned so that it is justly settled at the earliest opportunity. Hence the petition as above with the joint signatures of the principals of all the Osaka Municipal Upper Secondary Schools.

Names of schools and principals

Shinji Kumazawa: Osaka Municipal Minami Sakuranomiya Upper Secondary School.

Kentaro Agata: Osaka Municipal Nakanoshima Ogimachi Upper Secondary School.

Seiichi Yamaguchi: Osaka Municipal Naniwa Higashi Commercial Upper Secondary School.

Eiji Itoi: Osaka Municipal Nishi Commercial Upper Secondary School.

Shizuo Kaneko: Osaka Municipal Higashi No.2 Commercial Upper Secondary School.

Gunzo Yokoyama: Osaka Municipal Ogimachi No.2 Commercial Upper Secondary School.

Shichiro Horioka/ Osaka Municipal Ichioka Commercial Upper Secondary School.

Senzo Amemori: Osaka Municipal Tennoji Commercial Upper Secondary School.

Shinzo Asakura: Osaka Municipal Minami No. 2 Upper Secondary School.

Akira Kameshima: Osaka municipal Higher secondary School.

Shinpachi Kamatani: Representative of Osaka Municipal No.7 Commercial Upper Secondary School.

Shintaro Yokoo: Osaka Municipal Higashi Senba Upper Secondary School.

Kaichiro Miyai: Osaka Municipal Seika (Shimo-Fukushima) Upper Secondary School.

Eikichi Yamamoto: Osaka Municipal Miyakojima Industrial Upper Secondary School.

Kente Yasutake: Osaka Municipal Tennoji No.2 Commercial Upper Secondary School.

Orisaburo Wada: Osaka Municipal Ogimachi Commercial Upper Secondary School.

Noboru Takamaru: Osaka Munichipal Ashiike Commercial Upper Secondary School.

Shoshin Otake: Representative of Osaka Municipal Miyakojima No.2 Industrial Upper Secondary School.

Taro shinohare: Osaka Municipal Technical Upper Secondary School.

Yoshishige Nakata: Osaka Municipal Izuo No.2 Industrial Upper Secondary School.

Masami Murakami: Osaka Izuo Industrial Upper Secondary School

Rokuro Tsuda: Osaka Municipal Honai Upper Secondary School.

Shozo Murabe : Osaka Municipal Ikuno Industrial Upper Secondary School.

Conn PC
Okadapus
Jaki EN

PETITION

10 March 1949

Dear Mr. Anderson,

We had a student government meeting and as a result of our discussion it was decided by an unanimous vote that all the senior high schools in Osaka City be controlled by the City School Board. We think that it is the only way to really have good administration from the educational point of view.

We hope that you will take our decision into consideration.

Sincerely yours,

Mamoru Sekiguchi
Osaka Municipal Teachnical Arts
Senior High School Student Govt.

[illegible] workers [illegible] 74

(56)

No Of Men	SKILL REQUIRED
74	**NOTE:** The Name List are attached Typist, Interpreter, clerk, K.P., Orderly Body, Carpenter, Fireman, Photographer & Tailor

Probable duration of job **Permanent**

Tools or equipment to be provided by Japanese Agency ____________

Are supplies & materials for skilled labor on hand? ____________

REMARKS: They have been employed till May 15 1946 by 361st Engr SS Regt. APO 660 Osaka Castle as permanent employees and are being transfered to 240th Engr Cons Bn. Osaka Castle from 16 May 1946.

Requisitioning Unit:

Thomas M. Eckey

Signature Thomas M. Eckey, Sgt. 240th Engr Cons. Bn. Labor N.C.O.
(Name & Rank)

Approved for __________ Men

For __________________ Days

Telephone Exchange & No. Lightning - Toll

GLO ____________________

(Send Original and 3 copies to Military Govt.)

PETITION

From the PTA's of the Municipal S.H.S. in Osaka City

We have decided that in order to realize the true meaning of local control for the district school boards and to really maintain democracy, the city school board which is made up of members which were elected by the votes of the citizens should control the education in that area.

Because of this, we think that all the senior high shools in Osaka City should be under the control of the Osaka Municipal School Board. By doing so, we could have a continuous education and realize our ideals.

The above is our decision.

Signed by:

1. Mr. Takeo Dimura, Municipal Tennoji Commercial S.H.S , PTA Pres.
2. Mr. Akira Ikushima, Municipal Senio High School , PTA President
3. Mr. Kiyozo Yoshihara, Mun. Izuo Tech. S.H.S. PTA President
4. Mr. Seiichi Fujikawa, MUn. Blind School, PTA Presicent.
5. Mr. Manjiro Matsumoto, Mun. Nishi Com. S.H.S. PTA President
6. Mr. Shotaro Sato, Mun. Ichioka Com. S.H.S. PTA President.
7. Mr. Ichitaro Yasuhira, Mun. Sakuranomiya S.H.S. PTA President
8. Mr. Choshichi Yoshimura, Mun. Ogimachi S.H.S. PTA President.
9. Mr. Tomiji Toda, Mun. Nakanoshima S.H.S. PTA President.
10. Mr. Seiichiro Otsuka, Mun. Higashi-Semba S.H.S. PTA President.
11. Mr. Sakae Takahashi, Mun. Miyakojima Tech. S.H.S. PTA President
12. Mr. Kiyoshi Nakamura, Mun. Seventh Com. S.H.S. , PTA President.
13. Mr. Yoshiyuki Ono, Mun. Tech. Arts S.H.S. PTA President.
14. Mr. Takeo Inoue, Mun. Ikuno Tech. S.H.S. PTA President.
15. Mr. Masaro Koshi, Mun. Hanai S.H.S. PTA President.
16. Mr. S hu Norio, Mun. Minami S.H.S. PTA President.

(Presented on 15 March 1949)

HEADQUARTERS
OSAKA MILITARY GOV'T TEAM
(Translation & Interpreter Sec.)

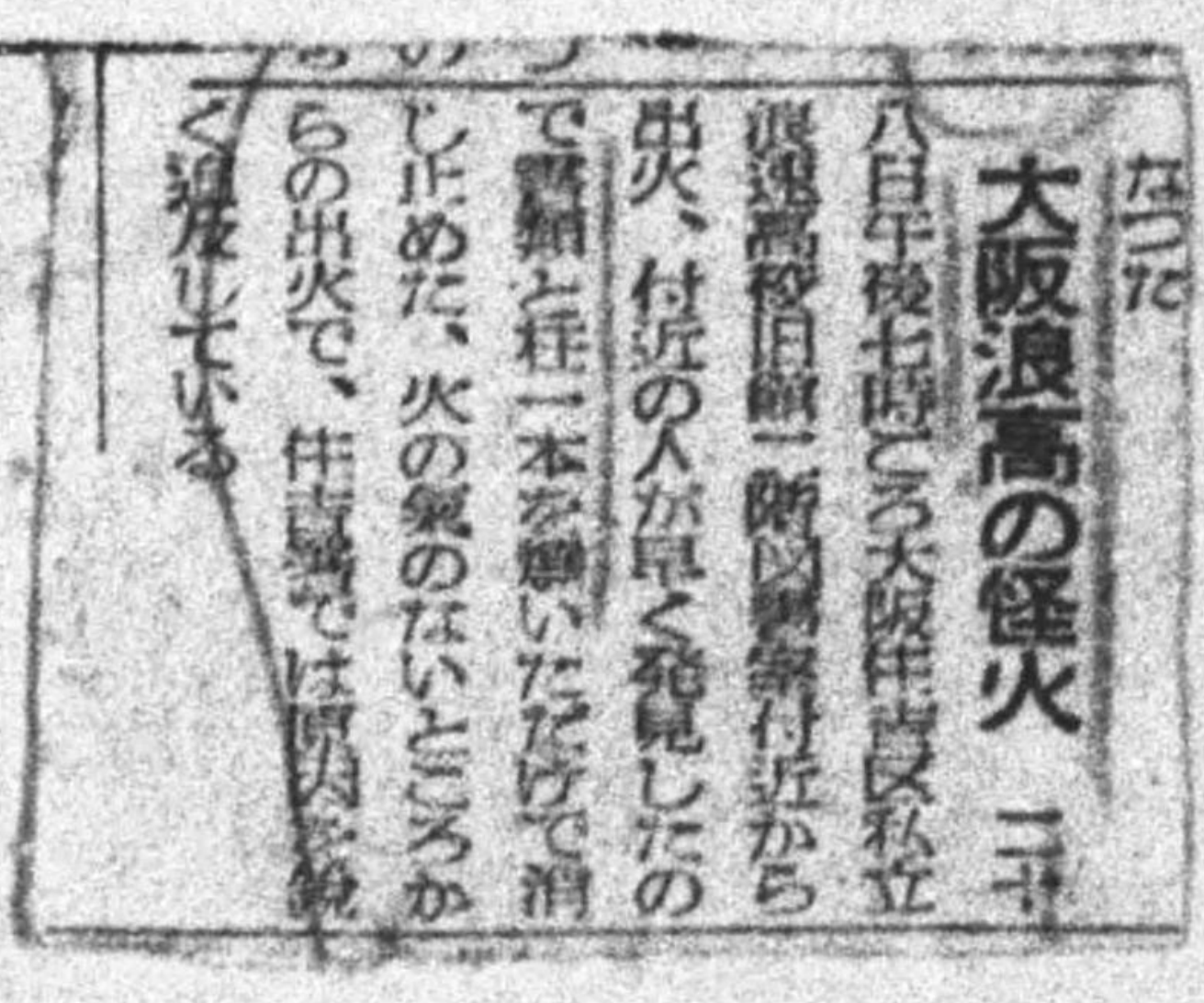
FROM:
The Asahi

DATE RELEASED: 2 March 1949,
DATE TRANSLATED: 3 March 1949,
TIME STARTED: 10:30
TIME COMPLETED: 10:40

DISTRIBUTION TO:
Legal Section
Education Section

TRANSLATED BY: M. Inoue
TYPED BY: H. Ueno
CHECKED BY: K. Kono

SUBJECT:
Misterious fire of Naniwa Upper Secondary School



なった

大阪浪高の怪火　二十八日午後七時ごろ大阪住吉区私立浪速高校二階図書室付近から出火、付近の人が早く発見したので書類と柱一本を焼いただけで消し止めた、火の気のないところからの出火で、住吉署では原因を鋭く追及している

At about 7:00 p.m. on February 28 a fire broke out near the library room on the second floor of the Naniwa Upper Secondary School of Sumiyoshi-ku, Osaka. As a neighbor found it at once, the fire was extinguished presently after burning some papers and one of the pillars. However, this fire started in a place where there should be no fire. The Sumiyoshi Police Station is now making a close investigation into the cause of fire.

J o K. ✓

HEADQUARTERS
OSAKA MILITARY GOVERNMENT TEAM
APO 25

23 March 1949

SUBJECT: Transfer of Prefectural Schools
to Municipal Schools

TO: PTA Chairmen of Municipal
Senior High Schools

Your petition for the transfer of prefectural schools to Osaka City has been received. We appreciate your interest. Public education will make great strides forward when the public in general, not just the officials, begins to take an interest in the long range improvement program for better schools.

FOR THE COMMANDING OFFICER:

HAROLD G. DOTY
Lt. Colonel, Infantry
Adjutant

Petition.

From All P. T. A. chairmen of Municipal

[illegible]
S. H. S. schools

Com PC ✓
Okada
Jaki — prepare letter of acknowledgment

市立天王寺商業高等学校ＰＴＡ會長　木村武雄
大阪市立高等学校ＰＴＡ会長　牛島利之
市立泉尾工業高等学校ＰＴＡ会長　吉屋喜代蔵
大阪市立[illegible]学校ＰＴＡ会長　菊川山一
大阪市立西商業高等学校ＰＴＡ会長　松本萬治郎
大阪市立市岡商業高等学校Ｐ、Ｔ、Ａ會長　佐東松太郎
大阪市立櫻宮高等学校Ｐ、Ｔ、Ａ会長　[illegible]平市太郎
市立扇町商業学校Ｐ、Ｔ、Ａ、会長　吉松[illegible]
市立福島商業学校Ｐ、Ｔ、Ａ、会長　戸田富[illegible]
大阪市立都島工業高等学校Ｐ、Ｔ、Ａ会長　高橋榮
大阪市立第七商業高等学校　Ｐ、Ｔ、Ａ、會長　中村清

決議文

大阪市内に於ける府立高等学校の市移管問題は、学校差の観念を排除し、教育の機會均等を図る上からも当然の事であり、地方教育委員会法の精神からも、教育の地方分権の実施こそ目下の急務であると信じます。

尚進学時期を間近に控えました今日是非早急に実現されますことを決議致します。

市立工藝高等学校PTA会長　小野喜之

大阪市立生野工業高等学校PTA会長　井上武雄

大阪市立汎愛高等學校PTA　会長　高士政郎

大阪市立南高等学校PTA会長　則尾秀

Comm Re
Okada
Joki EIJ

A PETITION OF ALL THE J.H.S. IN OSAKA CITY

It has been the earnest desire of the people in Osaka City to have the money which they spent, used in the way they desired to better the education of their own children and give equal opportunities to all. It was a great joy to see the establishment of the Osaka City School Board and have an independent educational administration of our own.

Beginning a little while ago, the Osaka City School Board began its negotiations with the Prefectural School Board to have the control of the prefectural senior high schools in Osaka City transferred to the city school board. These negotiations were carried out in order to satisfy the wishes of the citizens of Osaka City. We, as educators wish to have an educatinnal system including the primary, middle and high school levels all under one control. We think that this is very necessary to realize the real aims of e education. As this is a thing which we had been wishing for for many years, we are looking forward to its realization with great anticipation.

But, it is a great disappointment on our part that this can not be realizaed because of the feudalistic way of thinking of a small portion of people. We, all the principals of junior high schools in Osaka City, sign our names to this request that you will give us your kind consideration as soon as possible, so that the completion of education can be realized.

Written on 5 March 1949

1. Asahi Ist JHS: Masami Nagahara
2. Yasaka Junior High School: Kiyoshi Tsukamoto
3. Higashi-Yodogawa Second JHS: Shigeo Kadota
4. Nishinari First JHS: Kanji Morita
5. Nishinari Second JHS: Yoshio Anabuki
6. Higashi-Yodogawa Sixth JHS: Shigeji Kanda
7. " " Fifth JHS: Asaichi Uemura
8. Higashi-Yodogawa Seventh JHS: Takeyoshi Hatanaka
9. " " Third JHS: Shigeyasu Maeda

10. Taisho Second JHS: Yoshimitsu Nakajima
11. " First JHS: Tokuto Kubo
12. Nishi First JHS: Heizo Hirazawa
13. Sumiyoshi Fourth JHS: Kiichi Watanabe
14. Higashi-Sumiyoshi Third JHS: Kiichi Inoue
15. Ikuno Fourth JHS: Harutsugu Wakii
16. Asahi Third JHS: Muneo Shirono
17. Kita Second JHS: Sadao Yosuhashi
18. Higashi First JHS: Masaru Hori
19. Sumiyoshi Fifth JHS: Toshio Sakaguchi
20. " Second JHS: Yoshiharu Tomonari
21. Higashi-Sumiyoshi First JHS: Tokujiro Murata
22. Abeno First JHS: Shizu Akai
23. Nishinari Fourth JHS: Yoshitame Masui
24. Tennoji First JHS: Sekiguchi Heitaro
25. Tennoji Second JHS: Niichi Moriwaki
26. Miyakojima Second JHS: Fusano Endo
27. Joto Fourth JHS: Fumito Morita
28. Sumiyoshi First JHS: Kaoru Miyamichi
29. Higashi-Nari First JHS: Gentaro Nakano
30. Kita First JHS: Kotaro Kobayashi
31. Nishinari Third JHS: Tsuneshiro Ikeda
32. Konohana First JHS: Akira Yamada
33. Minato First JHS: Sanji Yagi
34. ~~Taisho First JHS: Tokuto Kubo~~
34. Noda JHS: Tadaichi Mukai
35. Joto Second JHS: Kiyomi Inoue
36. Higashi-Yodogawa First JHS: Tatsumi Takasaki
37. Nishi-Yodogawa Second JHS: Haruji Kobayashi
38. Higashiaari-Third JHS: Seisaku Furukawa
39. Abeno Second JHS: Okamoto Seishu
40. Abeno Fourth JHS: " "
41. Asahi Second JHS: Kaoru Hattori
42. Shimofukushima JHS: Yoshio Kuriyama
43. Miyakojima First JHS: Sonji Fukuyama
44. Higashi-Sumiyoshi Fourth JHS: Kameyoshi Morioka
45. Oyodo First JHS: Masayoshi Hayakawa
46. Higashi-Yodogawa Fourth JHS: Seichi Fukuzawa
47. Sumiyoshi Third JHS: Ichibei Kawamura
48. Ikuno Third JHS: Shotaro Kawanishi
49. Ikuno Second JHS: Soroku Murai
50. Joto First JHS: Suejiro Yamashita

51. Abeno Third JHS: Yoshizo Oyasu
52. Higashinari Second JHS: Masami Goto
53. Ikuno First JHS: Kosaku Nishioka
54. Higashi-Sumiyoshi JHS: Tomekichi Hagitani
55. Habikino Suburban JHS: Atsumi Yamane
56. Minami First JHS: Eiji Muneyuki
57. Naniwa First JHS: Shiro Shiokawa
58. Nishi-Yodogawa JHS: Shunzo Nonaka
59. Nishi-Yodogawa Third JHS: Yuei Ito
60. Joto Third JHS: Zenichi Obon

(end)

住所	氏名印
大阪市城東区古市南通一ノ二四	下土居隆三
大阪市東住吉区田辺東之町六ノ十	大西弥
大阪市生野区田島町二丁目三一九	清水英紀
大阪市西成区千本通四丁目五	中島孝一
大阪市生野区南生野町四ノ九	下村亮三
大阪市東住吉区北田辺町七六二	麻生宏
尼崎市杭瀬北之坪一二	住川義夫
大阪市東住吉区桑津町五	湯川昇一
吹田市藤ノ丘町五六ノ六	藤井実
大阪市生野区南生野町三丁目四一地	島津源治郎
西区九条北通一丁目一三地	中原政次郎
大阪市生野区南生野町二ノ四一地	高木キヌ
	岡野孝次郎
大阪市東淀川区南方町三ノ一七五地	川崎良之郎
堺市浜寺石津町中、三ノ二八	伊藤千代子

大阪府南河内郡高鷲村字岡三八	沼口省三 沼口
大阪府布施市永和町一ノ二二	多田友和 多田
大阪市生野区杭全町三〇〇	廣瀬邦彦
大阪府南河内郡古市町字北町九四	岡本栄市 岡本
大阪市住吉区山之内町三丁目一九八	小瀧壮太郎
大阪府豊中市桜塚元町三丁目四一	児山仁造
大阪府守口市三郷町大枝一四三ノ二	大東正三郎 大東
大阪府南河内郡道明寺村字大井六六五	仲田滝造 仲田
大阪府中河内郡恵我村大字別所六三七	藤澤文秀
大阪府守口市早苗町八八	新田傑二 新田
〃 一〇七	西田元次 西田
大阪府布施市稲田一五七八	佐々木安 佐々木
大阪府南河内郡丹比村多治井三〇一	田中亀太郎 田中

住所	氏名 印
奈良縣生駒郡生駒町大字小明八四五番地	大植繁雄
三重縣名賀郡名張町大字新原町三三六一	吉田芳
大阪府南河内郡古市町白鳥園	池田桂三
京都府綴喜郡八幡町岸本二〇	千金實
大阪府南河内郡道明寺村字澤田五三四	西野茂
大阪市阿倍野區昭和町中四丁目二四	但田重男
大阪府中河内郡瓜破村字東瓜破	萩平之次
大阪市生野區田島町四ノ六	真島弘俊
大阪市住吉區中住之江町[illegible]夫人賀郷靖之方	山口良平
大阪府南河内郡西浦村尺度五	北辻安
京都市下京區油小路七条上ル	上原英三
大阪市東住吉區北田辺町七ノ二	植野正三

陳情書

學区制。綜合制完全實施を行うために、高等学校を再編成するにあたり、大阪市内に於て府立、市立の二本建であることは極めて不便不能率であることは當然であります。一本建にするならば當然教育の地方分権、教育の民主化、教育の機會均等並に六、三、三制教育の一貫性等の完全實現には大阪市内にある高等学校は大阪市立でなければならないし、一定地域の高等学校はその地域の地方教育委員會が経営に當るべきであらうと思います。

以上の事柄は當然すぎる問題として吾々一同は今迄静観の態度を取ってまいりましたが決して等閑に附していないのであります

従って現下の状勢に鑑み、改めて世論を喚起して吾々の熱意のある所を軍政部各位に別紙署名を添えて陳情致しまして大阪市内の高等学校は大阪市立である様に示唆を與へられる様懇願致します

昭和二十四年三月七日

大阪市教員組合生野分会

大阪軍政部教育課殿

大阪市民が子弟を教育し自らも研究向上する為に自らの負担した経費を自らの希望する様に處理して教育の機會を均等にし効率を挙げたい事は多年の希望でありましたが過般大阪市教育委員會の設置を見学校経営を自主的に行い得る機構を与えられた事は非常な喜びでありました

今回大阪市教育委員會で市民の希望を実現する為に市内に所在の府立高等学校を大阪市に移管する様府教育委員會に交渉をつづけていますがこれは私共学校当事者として小中高三種の学校の経営を一貫するは教育の成果を挙げるためには必須な事でありますから多年要求している所でその実現を大いに期待しているのであり

要求して居る者でその実現を大いに期待しているのであります
然るに一部の封建的な考え方の為に急速にこれが実現
を見ないのは甚だ遺憾に存じますので新教育の完全
な達成を期する為には急速にこれが実現を見る様御高配
を賜りたく茲に大阪市立中学校長全員連署して御願申上
げます

昭和廿三年三月五日

大阪市教育委員会が市民の希望を実現する為に
喜んで[illegible]
経営を民主的に行い得る機構を与えられた事は新学制
としましては誠に適切で大阪市教育委員会の設置を見学校
教育の機会を均等に一般青年に与へた事は何よりの幸福
自らの負担する経費を自らの希望する様に処理して
大阪市民がその子弟を教育し自ら努力向上する為に

大阪市立住吉第四中学校長　渡邊[illegible]三

大阪市立東住吉第二中学校　井上喜一

大阪市立生野第四中学校長　勝井春継

大阪市立旭第三中学校長　植松[illegible]丈

大阪市立北第二中學校長　安橋貞雄

大阪市立東第一中学校長　塩　勝

大阪市立住吉第五中学校長　坂口利夫

大阪市立住吉第二中學校長　友成義晴

大阪市立東住吉第一中學校長　村田徳次郎

大阪市立西成第四中学校長　桝井好爲

大阪市立阿倍野第一中学校長　赤坂　静

大阪市立天王寺第一中學校長　関口来太郎

大阪市立旭第一中學校長　永原正美
大阪市立八阪中学校長　塚本清
大阪市立東淀川第二中學校長　門田重雄
大阪市立西成第一中學校長　森田寛治
大阪市立西成第二中學校長　穴吹好雄
大阪市立東淀川第六中學校長　神田重治
大阪市立東淀川第五中學校長　植村朝一
大阪市立東淀川第七中学校長　島中武吉
大阪市立東淀川第三中學校長　前田茂保
大阪市立大正第二中学校長　中出義光
大阪市立大正第一中学校長　久保德人
大阪市立西第一中学校長　平澤平三

大阪市立天王寺第二中学校長　森脇二一
大阪市立都島第二中學校長　遠藤房野
大阪市立城東第四中學校長　森田文太
大阪市立住吉第一中學校長　宮道馨
大阪市立東成第一中学校長　中野源右郎
大阪市立北第一中學校長　小林好太郎
大阪市立西成第三中学校長　池下恒四郎
大阪市立此花第一中学校長　山田明
大阪市立港第一中学校長　八木三吉
大阪市立大正第二中学校長　久保德人
大阪市立野田中學校長　向井忠三
大阪市立城東第二中學校長　井上清晃

大阪市立東淀川第一中學校長　髙崎巽

大阪市立西淀川第二中學校長　小林勝二

大阪市立東成第三中學校長　吉川清作

大阪市立阿倍野第二中學校長　岡本正修

大阪市立阿倍野第四中學校長　岡本正修

大阪市立旭第二中學校長　服部勲

大阪市立下福島中學校長　栗山勢雄

大阪市立都島第二中學校長　福山孫諾

大阪市立東住吉第四中學校長　森岡亀芳

大阪市立大淀第一中学校長　早川政吉

大阪市立東淀川第四中學校長　福澤瀬市

大阪市立住吉第三中學校長　川村市兵衛

大阪市立生野第三中学校長　川西松太郎

大阪市立生野第二中學校長　村井弥六

大阪市立城東第一中學校長　山下末次郎

大阪市立阿倍野第三中學校長　大安芳藏

大阪市立東成第二中学校長　後藤正身

大阪市立生野第一中學校長　西岡耕作

大阪市立東住吉第二中學校長　荻谷留吉

大阪市立郊外羽曳野中学校長　山根敦美

大阪市立南第一中學校長　宗行榮次

大阪市立浪速第一中學校長　塩川史朗

大阪市立西淀川第一中学校長　野中俊三

大阪市立西淀川第三中学校長　伊藤祐栄

大阪市立城東第三中学校長　尾埜義一

大阪市立西淀川第三中学校長　野中[illegible]三

大阪市立[illegible]第一中学校長　[illegible]

大阪市立[illegible]第一中学校長　[illegible]

大阪市立[illegible]中学校長　[illegible]原義雄

大阪市立[illegible]第一中学校長　[illegible]

大阪市立[illegible]中学校長　[illegible]

大阪市立東[illegible]第二中学校長　[illegible]

大阪市立[illegible]第二中学校長　[illegible]

大阪市立[illegible]第一中学校長　[illegible]木[illegible]

大阪市立[illegible]第二中学校長　[illegible]井[illegible]

大阪市立[illegible]第二中学校長　三[illegible]

61

市立工藝高等学校P.T.A会長　小野義之

大阪市立生野工業高等学校P.T.A会長　井上武雄

大阪市立汎愛高等學校P.T.A会長　高士政郎

大阪市立東高等学校P.T.A会長　則尾寿

市立天王寺商業高等学校PTA会長 [illegible]

大阪市立高等学校PTA会長 牛島[illegible]

市立泉尾工業高等学校PTA会長 吉原喜代藏

大阪市立盲学校PTA会長 葉利山一

大阪市立西商業高等学校PTA会長 松本[illegible]次郎

大阪市立市岡商業学校PTA会長 佐々木松太郎

大阪市立櫻宮高等学校PTA会長 安平東太郎

市立第二商業学校PTA会長 吉村長文

市立中之島商業学校PTA会長 戸田富治

大阪市立東船場商業学校PTA会長 大塚淳一郎

大阪市立都島工業高等学校PTA会長 高橋榮

大阪市立第七商業学校PTA會長 中村靖

決議文

教育委員会法の精神に則り教育の地方分権とその自主性並びに民主化の確保のためには教育委員会の設置せる地域の学校教育についてはその地方住民の選出した委員会に於いて運営せしめることが最も妥当なものである。因って此際大阪市内高等学校はすべて大阪市教育委員会に移管し一貫せる教育の理想を早急に実現せしめられんことを決議する

市立天王寺商業高等学校PTA会長　市村義雄

大阪市立高等学校PTA会長　生島[illegible]

市立泉尾工業高等学校PTA会長　吉原嘉代蔵

大阪市立盲学校　PTA会長　[illegible]山一

大阪市立西商業高等学校PTA会長　松本万次郎

大阪市立第二商業学校P、T、A会長　佐東松太郎

大阪市立櫻宮商業学校P、T、A会長　[illegible]平市太郎

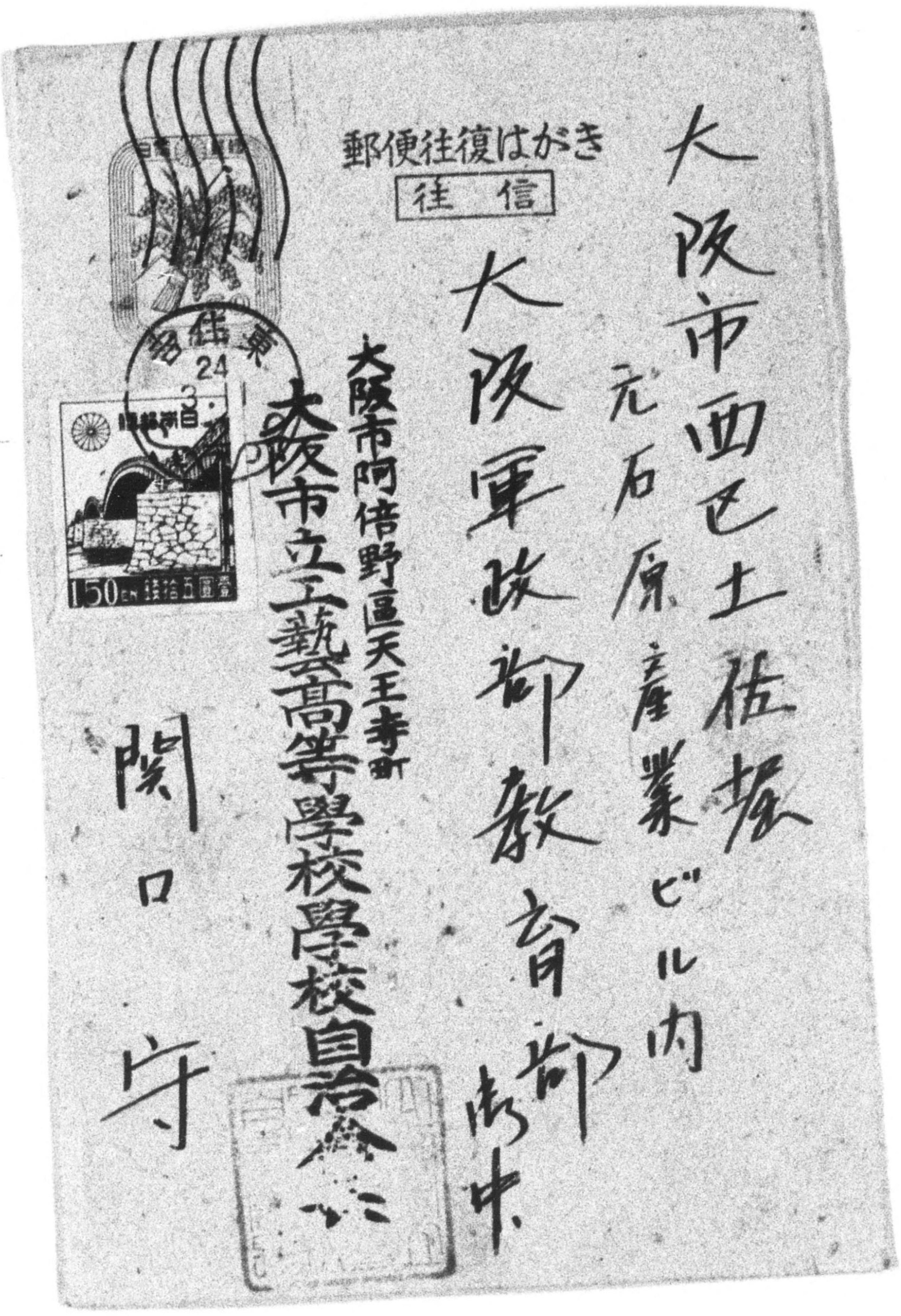
市立第一商業学校P、T、A、会長　吉村長文

市立甲子園商業学校P、T、A会長　戸田富治

大阪市立東船場商業学校P、T、A会長　大塚[illegible]

大阪市立都島工業高等学校P、T、A会長　高橋榮

大阪市立第七商業学校P、T、A、會長　中村信



郵便往復はがき

往信

大阪市西区土佐堀
元石原産業ビル内
大阪軍政部教育部
御中

東住吉
24
3

日本郵便
1.50 壹圓五拾錢

大阪市阿倍野區天王寺町
大阪市立工藝高等學校學校自治会

関口守

本校自治会で討議の結果
満場一致、市内高等学校の
教育行政は当然大阪市に
移管されるべきであるとの結論に
達しました、
右善処方要望します
昭和二十四年三月十日
ポール、エス・アンダーソン先生

決議文

当面せる市内府立高等学校市移管問題は学区制の実質的励行の上からも又綜合制教育の編制の上からも市内府立高等学校を市に移管せしめることは教育上純理の見地から当然であり教育委員会法の趣旨にも適する所以なりと思惟す

今や新学期も目前に迫りいたずらに遅延を許さず我等大阪市新制中学校PTA会長会は一切の障碍を除去し其の実現を誓う

右決議す

昭和二十四年三月四日

大阪市立新制中学校

全市PTA会長会

代表　山中登喜男

右

同　代表　後藤賢延

大阪軍政部司令官

コワルスキー大佐殿

陳情書

教育の地方分權教育の民主化の立前と
六、三、三制新教育の一貫性ある實施教育
の機會均等實施の為
大阪市内の高等學校は大阪市立たる
べき事を軍政府の皆様へ陳情致します

大阪市立泉尾工業高等學校
教職員一同

大阪府軍政部教育課御中

大阪市立泉尾工業高等學校

大阪市立泉尾工業高等学校 村上正己

教諭 山本一男

〃 川浪幸雄

〃 長瀬次昌

〃 中野哲夫

〃 織田賢一

〃 宮原克己

〃 島津陸三

〃 日埜昭彬

〃 楠正道

〃 菅谷泉

〃 毛利亘苑

教諭　大阪一郎
〃　吉永實
〃　松本平一
〃　吉田傳修
〃　鯖田豊實
〃　澤居種次郎
〃　濱川五郎
〃　上田健次
講師　前原也
教諭　室岡勲
〃　市原基美
助手　井上葛

大阪市立泉尾工業高等学校　村上正己

教諭　山本一男

〃　川浪章雄

〃　長瀬次昌

〃　中野哲夫

〃　織田賢一

〃　宮原克己

〃　島津隆三

〃　日野昭椎

〃　楠正道

〃　菅谷泉

〃　毛利亘宏

大阪市立泉尾工業高等學校

教諭　大阪一郎
〃　吉永實
〃　松本平一
〃　吉田傳修
〃　鯖田豊實
〃　澤居種次郎
〃　澁川五郎
〃　上田健次
講師　前原也
教諭　室岡勲
〃　市原基美
助手　井上葛

〃　飯島チエ子

講師　清原良夫

助手　鈴木明允

教諭　岡本泰一

助手　青野秀春

講師　佐々木満寿

教諭　飯田正

事務職員　西野光之助

〃　園田百恵

、　西岡慶子

〃　高橋孝子

〃　濱口和子

大阪市立泉尾工業高等學校

〃　丹羽嘉

Mr. Anderson –

The following is a Petition ~~to~~ ~~go~~ To expedite Settlement on the "School districting and School control" which at present is pending – The petition is submitted by the Osaka Municipal City High School teachers' Union

Obed –

歎願書

大阪市立高等学校教職員組合

私達は教育の地方分權、教育の民主化のため亦六三三制新教育の一貫性ある實施、教育の機會均等實現のためにも大阪市内の高等学校は大阪市立であるべきと考えます

新学年を眼前に控え至急御清断を賜りたい

昭和二十四年三月四日

大阪市立高等学校教職員組合委員長　杉村正次

仝書記長　尾原淳夫

仝常任委員　笠原五作

〃　末本宣一

〃　吉永実

〃　西野哉

〃　井崎政寿

〃　川口正治

〃　島田繁

〃　中橋周造

〃　植田五百次郎

〃　伯井一勝

〃　若林俊夫

〃　池本重男

〃　原　松太

〃　上甲　悦次

〃　佐藤　寿夫

〃　山田　文通

〃　中田　育子

市内の新制高校は大阪市へ移管すべきです

一、非民主的で夢を追う学校優越感の温床をなす学校差を撤廃

二、綜合科目制にして市の広い教育の機会を与へる

三、通学区域を定めて学校の分布をこれに適応せしめて生徒の経済的時間的負担を軽減する

以上の三点を実施するためには大阪市内にある府立市立の各高等学校を一本建にして地域社会の学校とするため大阪市の教育委員会が管理すべきであります。

我々は連署者によって軍政部の皆様にお願ひ致します.

昭和二十四年一月四日

住所	氏名	印
大阪市大淀區長柄中通一丁目十二番地	古川義照	古川
大阪市都島区友渕町十九	佐藤良三	
大阪市東淀川区相川南通二ノ六	岡村武弘	岡村
奈良縣生駒郡斑鳩町字法隆寺	柴谷精	
大阪市南区東清水町四七	柿木隆之	
大阪市大正区北恩加島町三四	榊啓治	
大阪市生野区大友町二ノ四	高西勝治	
大阪市天王寺区小橋寺町五八六	藤倉之夫	
和歌山縣海草郡太田一二三六	園田吉次郎	園田
大阪市旭区大宮町七ノ九六	西村宗	
大阪市城東区野江西之町三ノ一四六	辻本寧郎	

大阪市東住吉区駒川町八丁目二十五番地	[illegible]陳雁	印
大阪市東区横堀二丁目四九番地	高橋光夫	
大阪市此花区傳法町北四丁目三九	金田幸雄	
西宮市下新田上谷中字園ケ二四八	別所和雄	
東成区大今里町一、一三七	合川富造	
大阪市此花区伝法町北二一九〇	森靖一	
大阪市東成区東中浜町四丁目一三	千道昌夫	
大阪市福島区今開町一ノ一三九	武部博	
大阪府南河内郡[illegible]町[illegible]一三四	山田宏一	
此花区四貫島嘉[illegible]町之	渡辺惠次郎	
大阪市旭区森小路町七六〇ノ九	富村勲	
岸和田市春木戎町一〇九八	塚本俊義	

旭電氣工業株式會社

大阪市西成区曳舟町五四	原田穰
〃 都島区毛馬町一五四	西田有孚
〃 〃 都島中通六ノ一〇	池田紀元
兵庫縣川辺郡川西町六角五ノ二	西田勲
大阪市旭区北清水町一二一九	佐野正紀
都島区都島中通四ノ二七	福住鐵
都島区中野町一ノ十五	手嶋政美
住吉区北加賀屋町五一	井出口良家
大阪市港区石田布屋町三ノ一三八	黒島靖郎
大阪市北区黒崎町加	山本秀男
城東区野江東之町三ノ三六	吉田章
泉北郡高石町羽衣	岡田新太郎

市内の新制高校は大阪市へ移管すべきです

一、非民主的な夢を追う学校優越感の温床となす学校差を撤廃

二、綜合科目制にして市の広い教育の機会を与へる。

三、通学区域を定めて学校の分布とこれに適応せしめて父兄の経済的時間的負担を軽減する

以上の三点を実施するためには大阪市内にある府立、市立の各高等学校を一本建にして地域社会の学校とするため大阪市の教育委員会が管理すべきであります。

我々は連署により軍政部の皆様にお願致します。

昭和二十四年三月三日

加盟第二号様式

住所	氏名印
大阪府北河内郡門真町門真一二四四	中道情一
大阪市東淀川区三ホ町九四四番地	赤松竜吉
大阪市東成区森町南一丁目五〇	今中正一 今中
大阪市西成区津守町五九三	清水秀一
大阪府吹田市垂水一九三	高見義夫
大阪市東住吉区鷹合町天王	西尾敬
大阪市福島区上福島北四丁目六八	福岡義雄
大阪府北河内郡四條村野崎	上田庄次
大阪市城東区野江西之町二ノ六四	松田妯夫
大阪市東成区大成通二ノ四五	京田秀雄
奈良県北葛城郡志都美村	近澤重起 近澤

西大一九四七

奈良縣高市郡八木町	須田忠雄
大阪市天王寺区松ケ鼻町六一番地	吉田利之郎
大阪市旭区森小路町五丁目百六	猿山光星
大阪市都島区都島本通	秋吉邦憲
大阪府八尾市山本二八七二	望月五作
堺市北旅籠町西一丁二六	井上関右エ門
守口市三郷町高瀬三一三	船岡力
守口市神木町四八二	小西元徳
尼崎市森伊佐子二四八	矢野雄三
堺市百舌鳥梅之町四二〇	永原武彦
大阪市都島区都島東通三丁目	荒木秀信
大阪市港区石田布屋町一〇八	黒島乙力工

旭電氣工業株式會社

大阪府北河内郡四條村中垣内	酒井トメ
都島区中野町五ノ一四	三橋キヌ
大阪市南区東清水町六七	柿木美代
高槻市芥川北札場町一七二	益尾辰雄
大阪府北河内郡寝屋川町太秦六〇七	上田良治

市内の新制高校は大阪市が管理すべきです

一、非民主的な夢を追う学校優越感の温床をなす学校差を撤廃する為ん

二、綜合制として幅の広い教育の機會を与へる為に

三、通学区域を定めて学校の分布をこれに適応せしめて生徒の経済的時間的負担を軽減する為に

是非共以上の三点のためには大阪市内にある府立、市立の各高等学校を一本建として地域社会の要求に応じた綜合制の学校として大阪市の教育委員會が管理すべきであります。

我々は連合軍政部の此の様にお願ひ致します。

昭和二十四年三月二日

(關西高等工學校)

關西高等工學校

住所	氏名
大阪市此花区傳法町北五ノ八	小笛順弘
大阪市旭区赤小路町一六〇ノ一〇	高木和夫
大阪市住吉区西長居町六六〇番地	塚田義一
大阪市都島区中野町二丁目十四番地	三橋英一
東住吉区[illegible]九ノ九	野中正雄
大阪市東淀川区西國次町九五三	濱田長博
大阪市旭区赤川町三丁目六〇二番地	石津哲郎
大阪府豊中市桜塚本通五丁目八	松本清彦
都島区都島本通三丁目	土倉久雄
大阪市福島区十六町二七	上田弘司
布施市友井九一六番地	笹田孝雄
大阪市港区八幡屋宝町四ノ一三五	向井敏明
大阪市西淀川区姫島町一二六八	宇場豊

關西高等工學校

兵庫縣有馬郡塩瀬村字生瀬	田中浩
大阪市城東区放出町六〇三	黒田一夫
大阪市生野区鶴橋北之町二ノ二六	榎田吾郎
奈良県添上郡平和村字稗田	吉村政昭
京都市岡町四七ノ二	中地須次郎

大阪市

A Petition from Municipal Ogimachi-Nakanoshima S.H.S. Students, Prefectural schools to be transferred to Osaka City.

Every students signed.

Comm. P ✓

Okada

Jaki — Prepare brief letter of acceptance.

歎願書

大阪市立扇町・中之島高等学校自治會

府立新制高校の市移管について　お願い

私達は市立高校に學んで居るものでありますが、市教育委員會では新制高校の學区制を考慮して居るかに仄聞致して居ります。私達は市内の学校が府、市立の二本立として旧来の傳統にしばられ、そこに大きな學校差のあることを遺憾に思って居りました。併しこの學区制を完全に実施すれば學校差はなくなり教育の機會均等の意味から申しましても甚だ嬉しい事と存じます。そのためには是非市内府立校を市に移管され完璧なる學区制並に綜合制が敷かれねばなりません。私達がこういう問題に容喙することはいかがかも知れませんが、やむにやまれぬ私達の気持を軍政部の方にお聞き願いまして一日も早くこの問題が解決致しますよう。そうして目捷に迫ります新学期からは朗かに出発する新制高校で勉強が出来ますよう生徒一同心からお願いいたします。

昭和二十四年三月九日

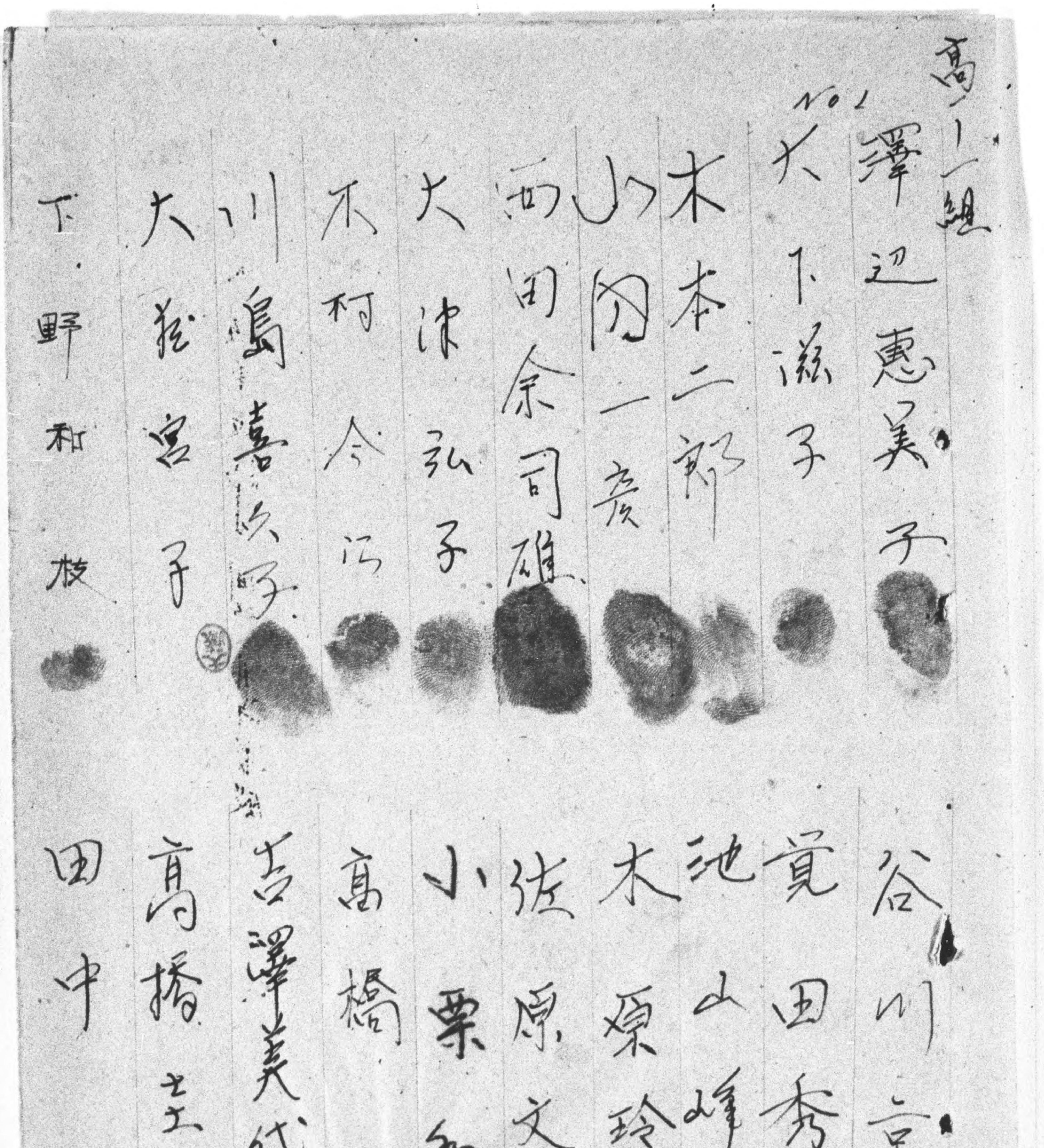
大阪市立扇町 中之島 高等学校

大阪市

生徒自治會

大阪軍政部民間教育課長殿

中川印[illegible]



高1ノ組

201

澤辺恵美子

大下滋子

木本二郎

山内一彦

西田余司雄

大津弘子

木村令江

川島喜久子

大坂宮子

下野和枝

谷川京子

覚田秀乃

池山峰子

木原玲子

佐原文子

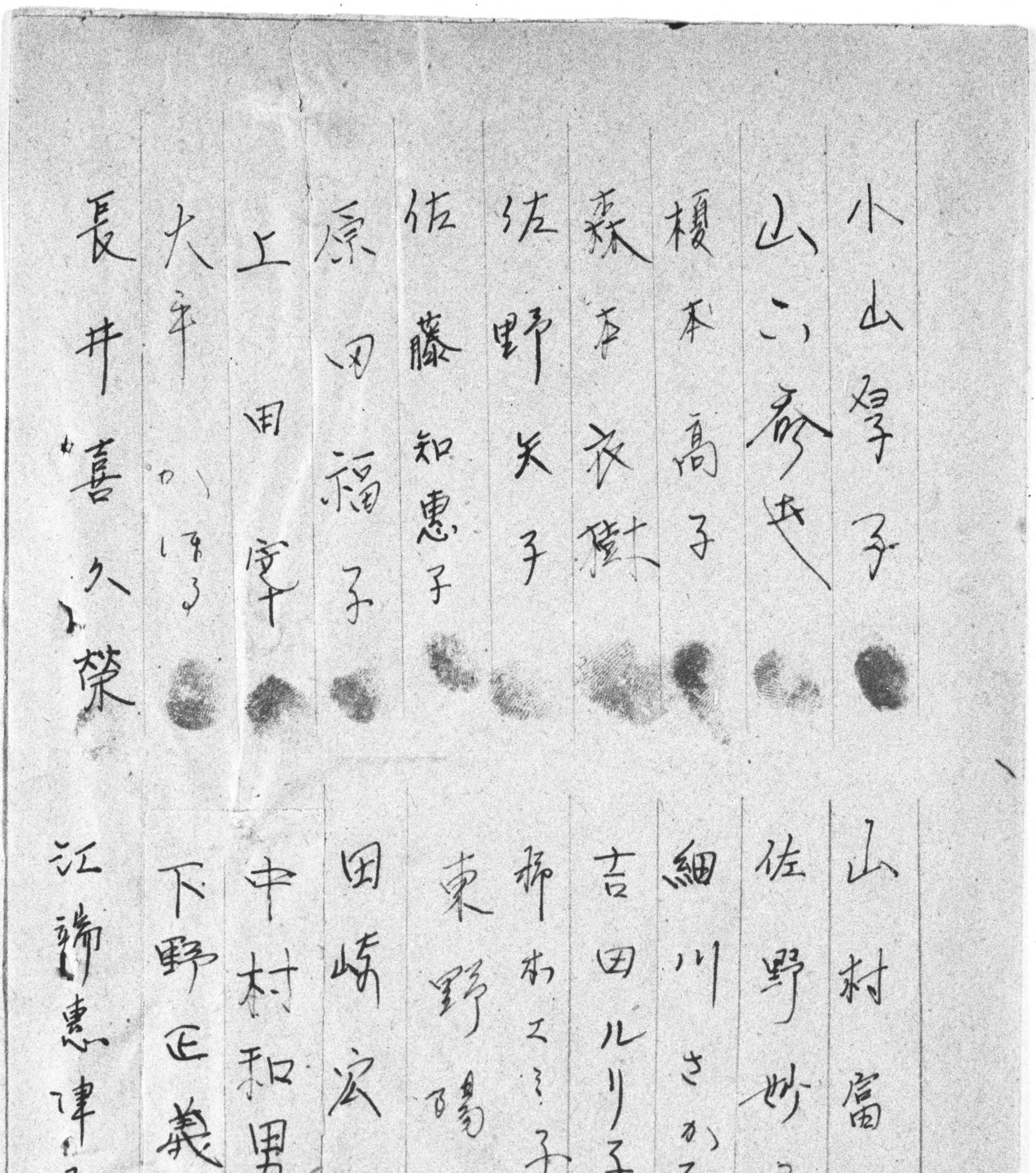
小栗和江

高橋欣

吉澤美代子

高橋圭子

田中幸



小山享子

山下彦也

榎本高子

森本衣樹

佐野矢子

佐藤知恵子

原田福子

上田寧

大平かほる

長井喜久榮

山村富江

佐野妙子

細川さかゑ

吉田ルリ子

柳本スミ子

東野陽子

田崎宏

中村和男

中村

下野正義

江端恵津子

高一ノ一組

No2 福田稚子

植草文子

岸田てるめ

神門康子

1 峰尾みあき

2 井上伐賀千

3 榎本千代子

4 飯田ヒトミ

5 山口登枝

6 [redacted]

7 [redacted]

8 中西千嘉子

9 三島靖子

10 築山八重子

21 仙福朝子

22 竹内和子

23 長町静江

24 香川綾子

25 大野みずえ

26 清水信子

27 足立華子

28 小野イト子

29 宮本郁恵

30 坂本洋子

11 〃斉佐ム子

12 吉田豊子

13 岩代仔乃

14 砂川菜子

15 高橋芳江

16 浅井緋美子

17 木村一子

18 和田三千子

19 山地香代子

20 福田明子

31 田中安子

32 三尾春子

33

34

35

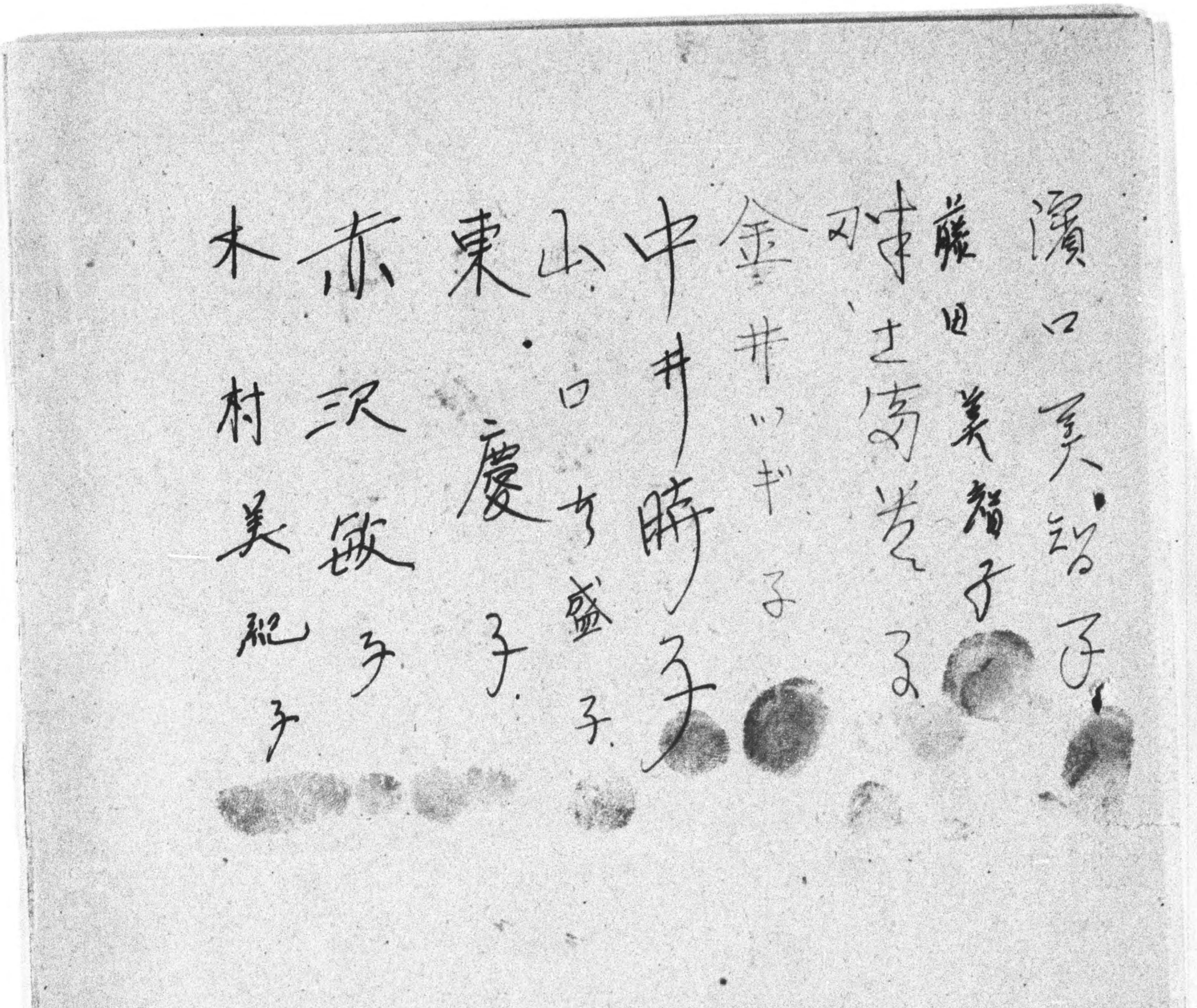
36

37

38

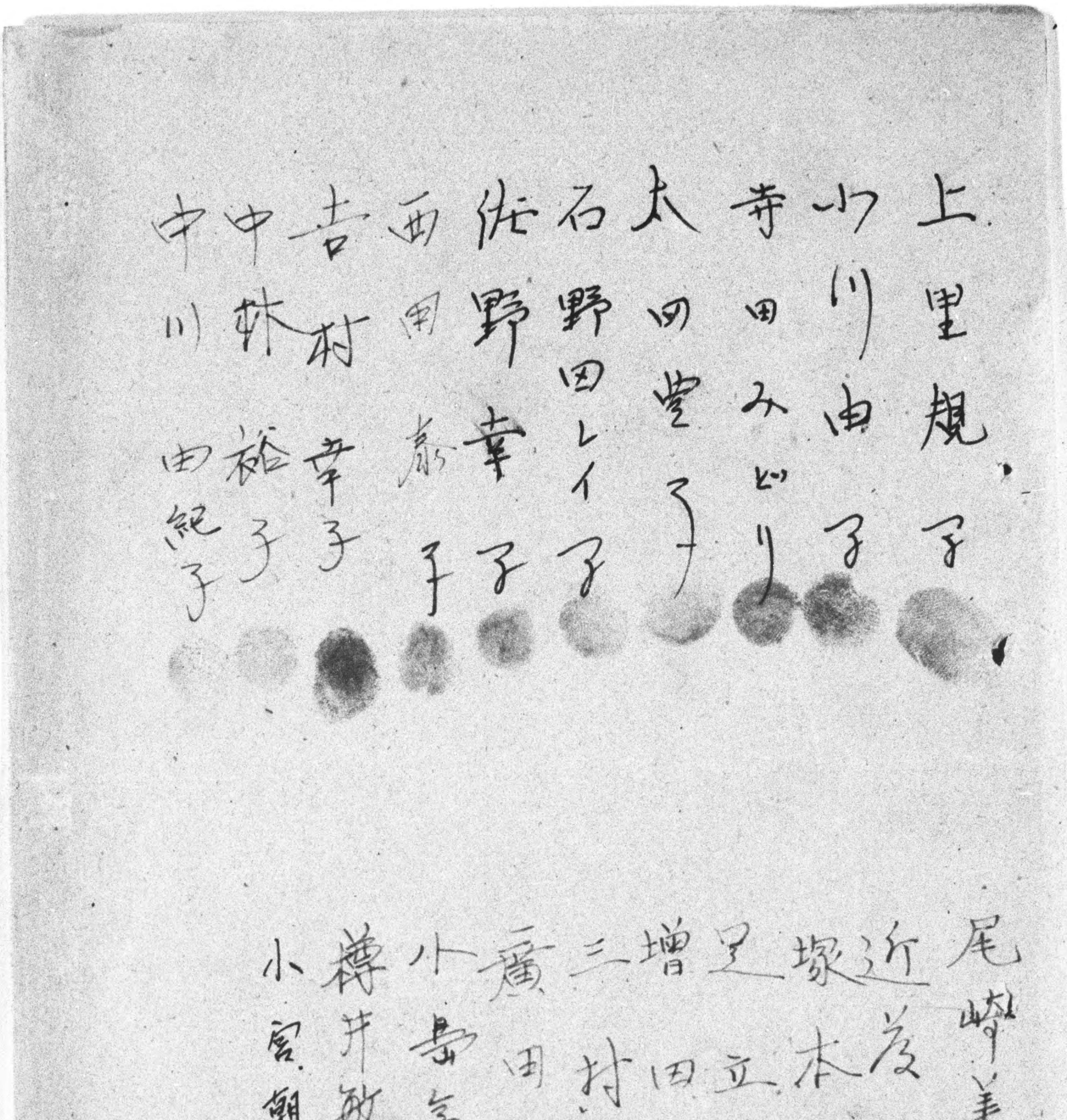
39

40



濱口美智子
藤田美智子
対さ寄芳子
金井ツギ子
中井時子
山口す盛子
東慶子
赤沢敏子
木村美紀子

石崎巳佐子
大森ろせ子
山本幸子
中井冨美子
西村靖子
安居淳子
塩山恵美子
高野和子
清水明子
木下ミヨ



上里規子
小川由子
寺田みどり
太田豊子
石野田レイ子
佐野章子
西田泰子
吉村幸子
中林裕子
中川由紀子

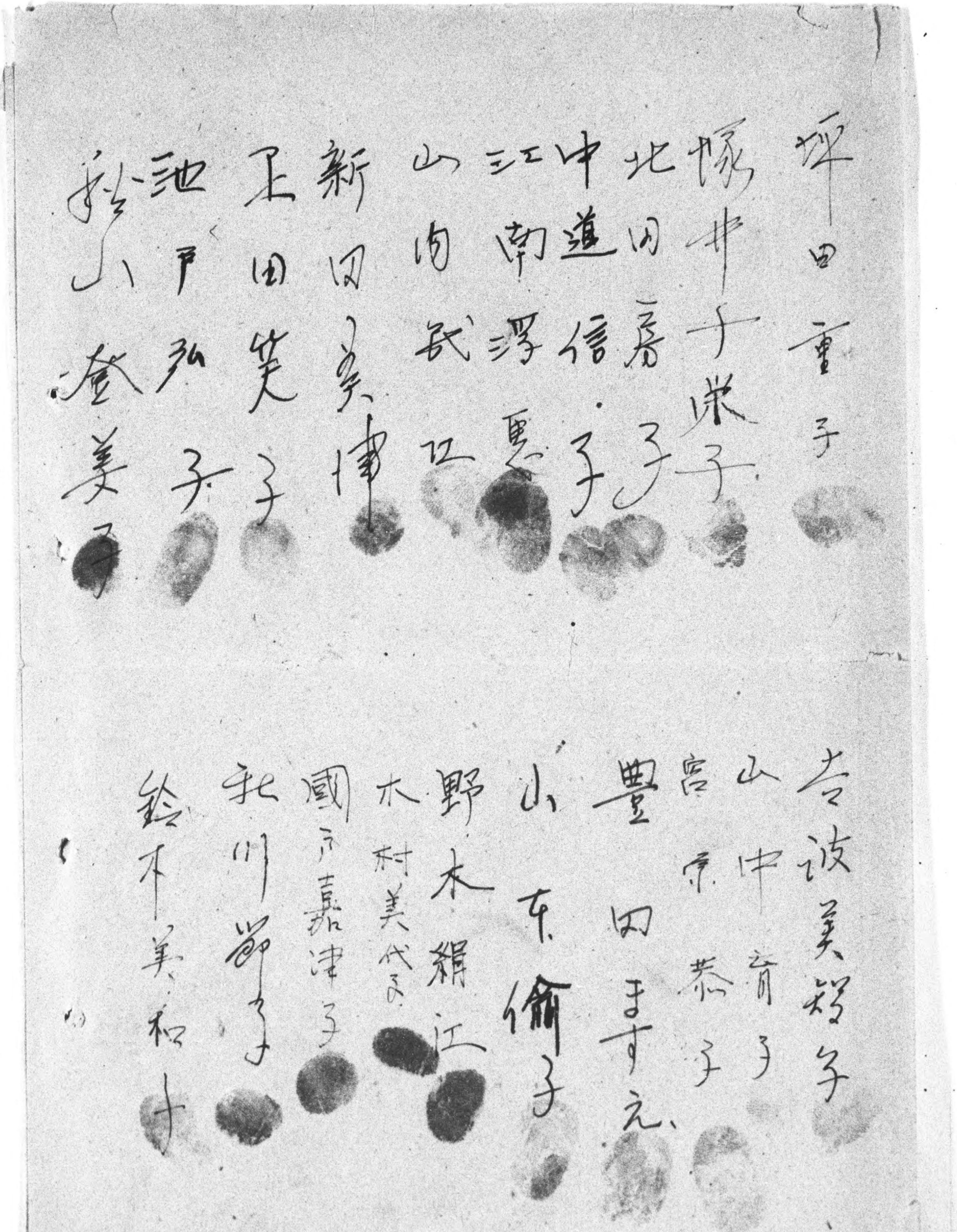
尾崎美恵子
近藤和子
塚本町子
足立多美枝
増田節子
三村憙子
廣田晶代
小岳多美子
樽井敏子
小宮朝子

増田佳子
山下みち子
中盤美枝子
竹麦淳子
和仁孝子
吉村博子
丸山須ゞ枝
田口英子
田中時子
日下敏子

甘青明子
安部禧公子
白井文恵
岩瀬朝子
石井貞子
高橋秋子
高野千代子
内村イサ子
和田増子

石田田鶴子
西浦みち代
狭間明子
中井節満子
本上智恵
山下政子
佐々木辰子
大川房子
古橋正代
大串郁子

高橋章子
宮崎郁子
平嶋京子
廣田艶子
林景節
前田啓子
吉島良枝
田中進子
村上慶子
渡辺ひろみ



坪田重子
塚井千栄子
北田房子
中道信子
江南澤恵
山内武江
新田美津
上田笑子
池戸弘子
杉山登美子

古波美智子
山中育子
宮京恭子
豊田ますえ
小東倫子
野木絹江
木村美代子
國戸嘉津子
秋川節子
鈴木美和子

万谷好子

飯田紀子

寺西薫

中野弘子

森田江津

高橋マキ子

榊豊子

赤井恭子

鉏取欣子

中三五 潮田和子
稲垣三ヨ子
永瀬佳代
石原梅子
讃村照子
梶川富久子
河野孝子
千原誠子
西口邦子
福田幸子

石本京子
福田章子
武士俣雅子
猿田史子
牧野慶子
木村富子
小磯マチ子
楠本美代子
森口美恵子
渡辺静子

川政久美

林照子

大熊久恵

太江ふミ子

二

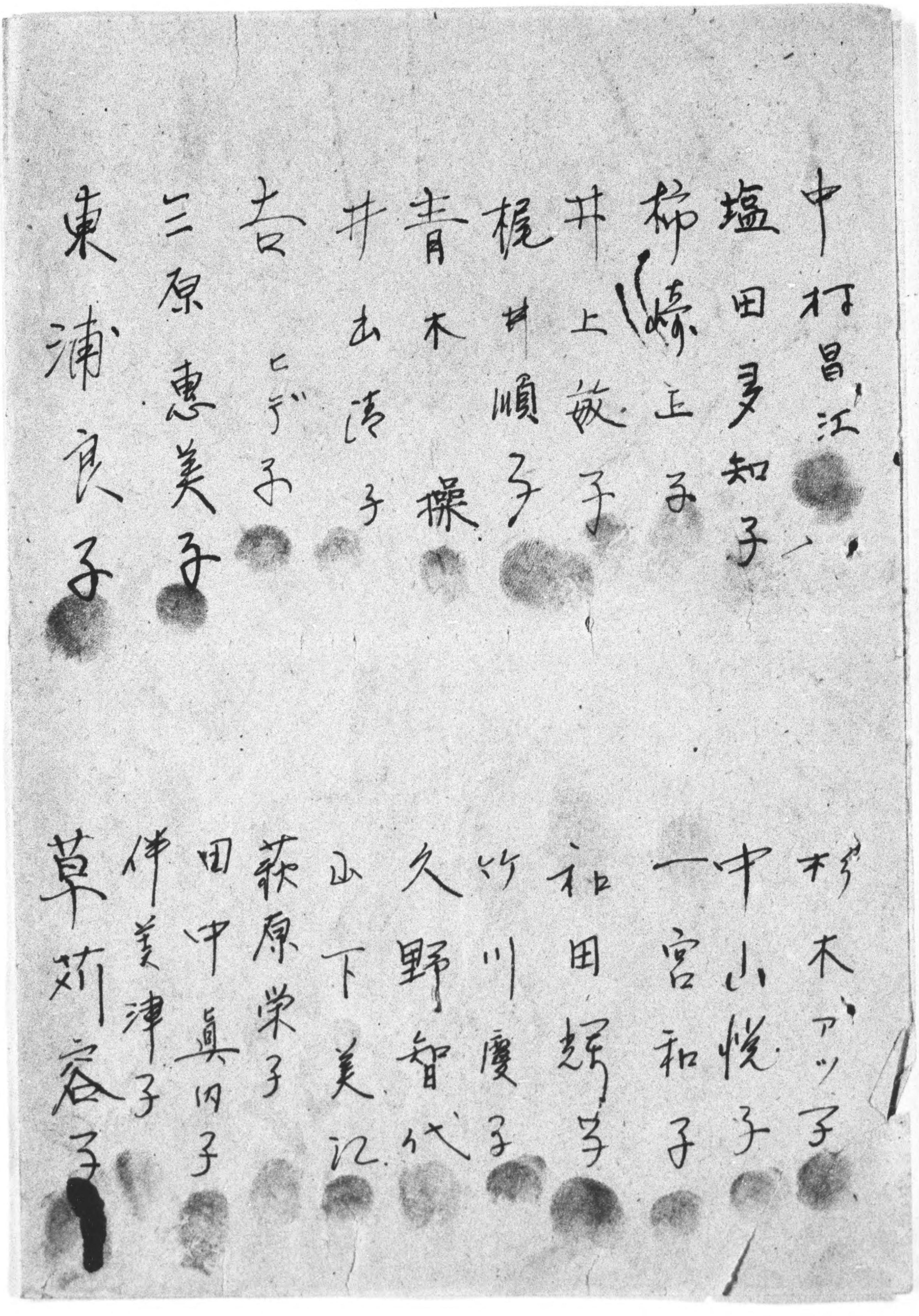
平関節子

平位迪子

金光糸江

[illegible]亀田早苗

[illegible]鶴見登代子



中村昌江
塩田多知子
柿崎上子
井上敏子
梶井順子
青木操
井出清子
春ヒデ子
三原恵美子
東浦良子

杉木アツ子
中山悦子
一宮和子
和田輝子
竹川慶子
久野智代
山下美江
萩原栄子
田中真由子
伴美津子
草苅容子

出見英子
吉田歌子
小川愛子
小嶋京子
樂野幸子
友成輝子
魚田稚子
上田和子
八木昭代
正木好子